

令和8年度 新座市立第二中学校 2学年国語科

◆国語科の目標

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

「話す・聞く」「書く」「読む」「言語・文化」に関して、目的や意図に応じ、解した内容を効果的に活用し、根拠を明確にしながらいたり話したりし、ものの見方や考え方を深める。

【学びに向かう力、人間性等】

知識・技能の獲得や、思考・判断・表現の充実に向け、粘り強く取り組む態度と、その取り組みの過程において自ら試行錯誤しながら学習を進めようとする態度を充実させる。

	単 元	学 習 活 動
一 学 期	1 広がる学びへ	「見えないだけ」：「詩」を読み味わう。 「アイスプラネット」：登場人物の言動や心情を読み取る。 「文法1」：単語の分け方 「魅力的な提案をしよう」：資料を示してプレゼンテーションをする。 「枕草子」：作者の四季に対するものの見方や感じ方に触れ、自分の感じ方と比べる。
	2 多様な視点から	「クマゼミ増加の原因を探る」：構成を捉え、説明の工夫を考える。 「情報を整理して伝えよう」：多様な方法で集めた情報を整理する。 「書写」：行書（硬筆）
	3 言葉と向き合う	「短歌に親しむ」「短歌を味わう」：短歌についてまとめ、筆者のものの見方・感じ方をとらえる。短歌を読み味わう。 「言葉の力」：筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。 「デジタル市民として生きる」：メディアの特徴を理解して情報を集める。
二 学 期	4 人間のきずな	「ヒューマノイド」「字のない葉書」：登場人物の言動の意味を考えて内容を解釈するとともに、表現の効果について考える。 「表現を工夫して書こう」：手紙と電子メールの違いを意識して書く。 「聞き上手になろう」：質問で思いや考えを引き出すインタビューをする。
	5 論理を捉えて	「モアイは語る」：事実や根拠を確かめながら、筆者の意見を読み取り考えを深める。 「適切な根拠を選んで書こう」：意見文を書く。
	6 いにしへの心を訪ねる	「平家物語」「扇の的」「仁和寺にある法師」：古典を音読し、場面や状況、人物の心情を読み取る。 「漢詩の風景」：漢詩の基礎知識を理解し、読み味わう。
三 学 期	7 価値を語る	「君は『最後の晚餐』を知っているか」/「『最後の晚餐』の新しさ」：筆者のものの見方や考え方を読み取る。 「立場を尊重して話し合おう」：異なる立場や意見を尊重しながら討論し、視野を広げる。 「文法2」：用言の活用 「書写」：行書（書き初め）
	8 表現をみつめる	「走れメロス」：作品を読み味わい、人間の生き方や考え方について自分の考えを持つ。 「文法3」：付属語 「描写を工夫して書こう」：物語を自分の言葉で表現する。 「国語の学びを振り返ろう」：1年間の学びを振り返り、次年度に生かす。

※ 各学期、上記の単元の他に適宜「言葉の知識に関する事項」、「言葉の表現に関する事項」についての学習を行う。

○「国語 A」「国語 B」について

主に「読むこと」と「書くこと」を「国語 A」、「話すこと・聞くこと」及び古典、漢字、文法等の言語事項を「国語 B」とし、二人の教員がそれぞれを全クラス担当する。週に4時間ある国語のうち、週に2時間ずつ授業を行う。各学期の評価・評定は「国語 A」「国語 B」をあわせたものになる。

○使用教材について

国語2（教科書：光村図書）、国語便覧、文法テキスト、キュビナ

○ノートについて

授業支援クラウド「ロイロノート」を活用して授業を進めるため、ノートを用意しないでもよい。もし、手書きで書く活動がある場合は担当教員がプリント等を用意し配布する。返却されたプリントは後日自己評価のために使用する予定なので、各自クリアファイル等で保管すること。

○評価について

・評価の観点…次の3観点について、ABCで評価する。

- ①知識・技能・・・・・・・・・・漢字の読み書き、国語文法、古典知識、書写など。
- ②思考・判断・表現・・・・・・・・文章読解、作文、スピーチ、聴き取りなど。
- ③主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の取組、課題の提出状況、持ち物など。

・評価方法

- 1、ルーブリック評価に基づいた学習活動における発言や制作物の見取り。
- 2、パフォーマンステスト（課題）、単元調査等。
- 3、単元の振り返りなどを蓄積した学習ポートフォリオ。

○評価と評定の関係

AAA	⇒⇒ 「5 または 4」
AAB	⇒⇒ 「4」
ABB・AAC	⇒⇒ 「4 または 3」
BBB	⇒⇒ 「3」
BBC・ACC	⇒⇒ 「3 または 2」
BCC	⇒⇒ 「2」
CCC	⇒⇒ 「2 または 1」

※ 上記を原則とするが、評価の基準に照らし合わせ、同じ評価であっても評定が変わる場合がある。特に、すべての観点の評価がAであっても「4」になることがあることに注意する。

※ 欠課が多い場合は、観点別評価がいずれもCまたは評価不能になる場合がある。

○定期テストについて

各単元の言語活動（課題）や小テストの成果によって観点別の評価を行う。これ以外に、国語の総合的な知識や思考力の定着を測るために定着度診断テスト（年に3回）も実施していく。それに伴い、定着度診断テストを実施した学期については、各単元の評価を個別に行っていることや、定着度診断テストによって総合的な学習成果を測っていることから、定期テストを実施しない。

○学習方法について

- ・語彙を増やすために、知らない言葉に出会ったときに意味を調べる癖をつける。
- ・授業で学んだ難しい表現や古典的表現をあえて日記や会話で使ってみる。
- ・接続詞等、思考を広げる言葉を意識して日記や会話をする（しかし、だから、例えば、つまり、等）
- ・学習した内容を活かし、表現につなげる練習を意識的に行う。
- ・指示された提出物や課題は計画的に進め、期限を守る。わからなければ人に聞く。
- ・教科書の本文を繰り返し読むこと。特に古典の暗唱などは、繰り返し声を出して読むようにする。
- ・普段から本や新聞など文章に触れる機会を作る。
- ・文法は多くの問題にあたって慣れる。
- ・漢字は大きく、一点一画を丁寧な字で書くよう心掛ける。